

福山コンサルタント 福島 宏治氏



福山コンサルタントの社長に9月26日付で福島宏治常務取締役戦略企画室長が就任した。公共投資の増加を背景に3期連続増収と追い風の中での船出となるが、「目指すところは自律した経営の実現」と自然体に構える。既存のコンサルタント事業の強化と新たなコア事業獲得の「デュアルモード戦略」をキーワードに、環境に左右されずに走り続ける企業へと成長戦略を描く。今後の経営戦略と運営方針を聞いた。

—現在の経営環境は  
「8月末の手持ち業務量は前期比16%増で好調に推移している。14年6月期からスタートした第3次長期プランの前半3年を財政出動重点期ととらえており、結果的にびたりとはまった。当面は生産力を思いどおり補強できるかがかぎを握っている。ただ、ポスト復興需要期に入っており、今後の展開は慎重に見ておく必要がある」

—経営方針、成長戦略

新 社 長 Interview

「キーワードはデュアル。建設コンサルタントという既存分野をより強化するとともに、新しい核となる事業を創

デュアル戦略で自律経営

出し、将来的にデュアルコアを装備する。コンサルという既存のルールを走り続けるがこのルールは老朽化し、もうすぐ終わるかもしれない。その時はタイヤに履き替えてルールの外を走り続けられるようにしようということだ」

「コンサル事業の強化では顧客満足度の向上を図る。成果品の品質を高めて他社との比較優位性を向上させるために技術者の育成・強化に継続的に取り組むほか、無線セン

サーや新たな地域展開など既存の技術分野からしみ出して発生する新規事業を展開するなど人材と時間を投資した内部成長戦略をとる。一方で、新たなコア事業には人材に加えて資金も投入し、M&A（企業の合併・買収）など外部獲得戦略を進める。このデュアルモード戦略で自律した経営の実現を目指す」

「新規事業を確実に進めるため、コーポレート・ベンチャー・キャピタルの機能を社内に備える。研究開発も含め、事業の成否や事業化時期などを見極める投資の尺度を明確にする」

「新入社員は入社後2年、4年で異動する仕組みをつくらせた。4年間のOJT（職場内訓練）を経て正式配属となるが、複数の地域、部門を経験したことは10年後の力になる。また、先輩社員が若手をサポートするメンター制度も検討している。頼られることが人を成長させる面もあり、若手とベテラン双方の成長を促すと期待している」

「10年ほど前に女性技術者による『福山プラス』を組織し、女性の目線から多くの提案をもらっている。女性が元気だと会社や業界そのものも元気になる。技術者の育成は

「M&Aの取り組みは「コンサル以外をやるにしても基本コンサルは技術になる。経営コンサルなどから

記者の目

5代目にして初の技術系以外の社長となるが、気負うことなく、「今日、明日のことより将来に向けての思いを強く持ち、65年の蓄積を魅力ある会社、産業として次の世代につないでいければ」と自身の役割を明確にして臨む。企画、経営畑が長くM&Aなどの経験も豊富。「内外から変化を求め風が吹いている。今が変わるチャンス」と意欲をみせる。学生時代の専門だったドラッカーは「すべて読み返した」そうだ。休日には水泳や釣り、愛犬との遊びでリフレッシュする。

（ふくしま・こうじ）1983年4月福山コンサルタント入社。2007年10月執行役員企画室長、09年9月取締役経営企画室長、11年10月常務取締役経営企画室長、13年7月同戦略企画室長を歴任。現在は戦略企画室長を兼任するほか、福山リサーチ&インキュベーションセンターの代表も務める。北九州大商学部経営学科卒。宮崎県出身、55歳。